

さいたま市立大宮北中学校

# 学校だより 12月号

令和4年12月1日(木)

048(641)1214

048(641)6680(さわやか相談室)

<http://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/>



学校教育目標

『人間性豊かな  
実践力のある生徒』  
たしかな学力  
ゆたかな心情  
たくましい身体

## 無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)とは

～大宮アルディージャ VENTUS との交流会を通して～

校長 とみた ひでお  
富田 英雄

師走に入り、朝晩の冷え込みが厳しくなり、冬の到来を肌で感じる季節となりました。空気が乾燥する時期でもあり、感染症の第8波とインフルエンザの同時流行が懸念されています。引き続き、活動場所や活動場面に応じたマスクの着用、うがい、手洗い、消毒等の徹底をお願いします。また、発熱やのどの痛みなどの体調不良がみられた場合は、登校を控えるよう、御協力をお願いします。

過日、4年ぶりに「寿能台レース」が開催されました。生徒は、大宮公園内の周回コースを颯爽と駆け抜けてくれました。走っているときは、苦しいと思う場面もあったと思いますが、走り終えた後の閉会式の生徒の表情はとても輝いていました。走ることの楽しさを少しでも感じてくれたらなと思っています。

さて、学校だより11月号の記事でも紹介しましたが、10月26日(水)に、WEリーグ(日本女子プロサッカーリーグ)の大宮アルディージャ VENTUS(ベントス)の選手7名が来校し、本校の生徒とグループ・ディスカッションを行いました。選手が来校したのは、WEリーグの理念「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。」を目指した取組(WE ACTION)の一環です。グループ・ディスカッションのテーマは「ジェンダーについて考えよう!」です。まず、埼玉県男女共同参画推進センターの専門員の方から、過去の経験や知識に基づいた自分自身では気づいていないものの見方や捉え方のゆがみや偏りのことを無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)という説明がありました。そして、「男だからこうだ、女だからこうだ」と決められて考えられがちだが、それによって悪気はなくても誰か(の心)を傷つけてしまっているかもしれない、そのことに、まずは、気づくことが大切だと話がありました。そして、グループ・ディスカッションがスタート。

「女子だから料理できた方がよいと言われたが、男子も料理できていいと思う」、「男子なのにピアノをやって女子みたいと言われるが、男子でも得意なことはやっていいと思う」など、男子だから(女子だから)こうだという考え、それに対しての自分の意見を出し合い、用紙にまとめました。進行役の選手もジェンダーに関して様々な経験を話しながら、生徒の意見を引き出してくれました。「男は理系、女は文系(関係ないと思う)」、「女子なのにご飯をたくさん食べる(食べる量は人それぞれ)」、「女子なのにサッカーやる(スポーツに男女関係ない)」など様々な意見がどんどん出て、選手たちも驚いていたようです。

この交流会を通して、参加者それぞれが、無意識の偏見の事例を共有することで、新たな気づきがあり、ジェンダーについて考えるよい機会となりました。今回は、依頼を受けてから開催までの準備期間が短く、一部の生徒の参加となりましたが、さいたまSDGs教育、人権教育の一環として、全校生徒にも、無意識の偏見について考えてもらおうと思っています。